

ドングリと動物

ドングリはブナ科の樹木の果実で、中に種子が1個入っています。なのでクリもドングリの仲間ということになります。8月の終わりごろから一人前の大きさに育ってきて、動物たちが食べ始めます。

ドングリは地味な色ですが、大きくて、林床でも他のものに紛れず、見つけやすい果実です。栄養も豊富なので、たくさんの動物が食べます。食べられれば、ドングリは死んでしまい、次の世代の樹木に育つことはなくなります。ドングリが生き残るためには、食べられては困るはずですが、それなのに、一見、何の工夫もなく林床に落ちて、食べられてしまうのは、不思議なことです。

誰の仕業？

成熟する直前のドングリが切り落とされる



木の上にあるときに、ハイロチョッキリという昆虫がドングリに産卵し、枝ごと切り落とす。8月末から見られるようになり、ドングリの自然な落下が始まるまで続く。



落ちたドングリから虫が出てくる
ドングリが成熟する頃から、コナラシギゾウムシがドングリに産卵する。母虫はドングリを切り落とさないが、まもなくドングリは自然に落ちる。幼虫はドングリの中身を食べて成長し、冬の前に出て地下にもぐる。



←ムササビは、木の上にあるときに枝ごとかじり取ってドングリだけを食べ、残りがすを落とす。落ちてしまったドングリは、取りにいけません。

クマ棚 ツキノワグマが枝を引き寄せてクリを食べた痕。コナラなど、他のドングリにもできる。折れた枝は落葉しないので、冬に枯葉がついたままになり、よく目立つ。



← ニホンザルの食痕
まだ未成熟なドングリを、かじっている。

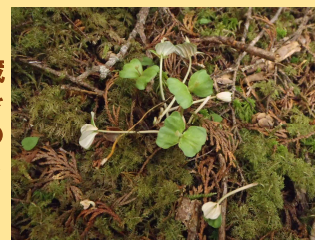
ドングリが成熟すると、殻斗※とドングリの中に離層ができて、簡単に取れるようになり、やがて自然に落下する。この頃になると、ドングリを食べる動物はさらに増えます。



落ちたドングリは野ネズミ、ニホンジカ、イノシシなども食べる。

貯食

その場で食べるだけではなく、食物のある時に、無いときに備えて食物を貯蔵する動物もいます。カケスは離層ができて取りやすくなったドングリを、その日の食物としてだけでなく、貯蔵用にもたくさん集めます。ニホンリス、アカネズミも貯蔵します。



←貯食された場所から発芽した、ブナ。貯食場所から回収しようとした跡がある。状況からホシガラスの仕業と考えられる。

ドングリが食べられることなく運ばれ、分散する手段が、貯食によって達成されま。将来のためのものなので、動物は「収穫」がある間は、多くの時間を貯食に割きます。その結果、余ることもあるし、持ち主死亡によって残る種子もあるでしょう。

樹上のクリはイガごとかじる

